

(成果情報名) 多収で香気に特徴があるチャ「ふくみどり」の品種特性		
[要約] 樹勢が旺盛で多収であり、耐寒性が強く、製茶品質、官能評価は「やぶきた」と同等に優れる。また、製茶にすると「やぶきた」と異なる品種特有の香気を有する。		
茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所	成果 区分	普及(情報)

1. 背景・ねらい

本県のチャの品種割合は「やぶきた」が83%を占めている。そのため、香味の画一化や摘採加工が集中するとともに、凍霜害や寒害、病虫害等の被害を一時的に受ける危険性を持っている。そこで、耐寒性があり高品質高収量性で、「やぶきた」を補完する本県茶産地に適する品種を選定する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 萌芽・摘採日は「やぶきた」とほぼ同等か約一日遅れる中生種である(表1)。
- 2) 樹高・株張りが大きく生育が優れ、樹勢が旺盛である(表1)。
- 3) 寒害による赤枯れと青枯れの被害程度は「やぶきた」より少ない(表1)。
- 4) 一番茶・二番茶の生葉合計収量は、「やぶきた」より約30%多い(表2)。
- 5) 百芽重は「やぶきた」とほぼ同等で、やや芽重型である(表2)。
- 6) 一番茶・二番茶における荒茶品質及び旨味に関する全窒素含有率は、「やぶきた」と大差はみられない(表3、4)。
- 7) 製茶にすると「やぶきた」とは異なる品種特有の香気を有する。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 耐寒性が強いので県下全域に適用できる。
- 2) 炭そ病に弱いため適期防除が必要である。
- 3) 本品種は、埼玉県茶業試験場(現埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所)で育成され1986年に種苗登録された。
- 4) 苗木は埼玉県茶業協会(同)で扱っている。

4. 具体的データ

表1 生育特性

供試品種	萌芽日 (月日)	摘採日 (月日)	樹高 (cm)	株張り (cm)	株張り 指数	生育の 良否	障害発生程度		
							炭そ病	赤枯れ	青枯れ
ふくみどり	4.16	5.19	85	129	1.52	3.5	1.9	1.3	1.1
やぶきた	4.16	5.19	70	107	1.53	3.0	1.7	1.9	1.2

注) 萌芽・摘採日は平成 11 ~ 17 年の平均値。樹高、株張り、生育の良否は平成 17 年の値。障害発生程度は平成 8 ~ 17 年の平均値。

株張り指数：株張り ÷ 樹高 生育の良否：1 (不良) 5 (良) 障害発生程度：1 (無) 5 (多)

表2 収量および百芽重 (平成 11 ~ 17 年の平均値)

供試品種	生葉収量 (kg/10a)			百芽重 (g)	
	一番茶 (指数)	二番茶 (指数)	合計 (指数)	一番茶	二番茶
ふくみどり	244.1 (116)	238.3 (146)	482.4 (129)	41.4	36.2
やぶきた	210.3 (100)	163.3 (100)	373.6 (100)	41.2	30.5

注) 指数は「やぶきた」を 100 とした値

表3 荒茶品質 (平成 11 ~ 17 年の平均値)

供試品種	一番茶品質						二番茶品質					
	形状	色沢	香気	水色	滋味	内質計 合計 (指数)	形状	色沢	香気	水色	滋味	内質計 合計 (指数)
ふくみどり	8	8	9	8	8	25 41 (100)	9	8	9	8	9	26 43 (98)
やぶきた	8	9	8	8	8	24 41 (100)	8	9	9	9	9	27 44 (100)

注) 品質評価は各項目 10 点満点で行った。指数は「やぶきた」を 100 とした値

内質計=香気+水色+滋味

表4 荒茶成分含有率 (平成 17 年の値)

供試品種	一番茶					二番茶				
	全窒素	遊離アミノ酸	テアニン	カ1イ	タンニン	全窒素	遊離アミノ酸	テアニン	カ1イ	タンニン
ふくみどり	5.4	2.6	1.4	3.3	16.3	3.6	0.7	0.3	2.2	15.9
やぶきた	5.5	3.2	1.8	2.7	14.3	4.0	0.7	0.3	2.1	16.6

注) 成分は乾物当たり%、近赤外分光分析法

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

チャ推奨品種決定調査・平成 8 ~ 17 年度・山間地帯特産指導所